

清涼飲料におけるリユース製品の現状と課題

- 1 清涼飲料における容器別生産量の動向
- 2 清涼飲料におけるリユースの取組み事例
- 3 びんリユースが進まない主な要因
- 4 びんリユースの成功に必要なと思われる要素

2011年8月19日

環境省：びんリユースシステムのあり方に関する検討会

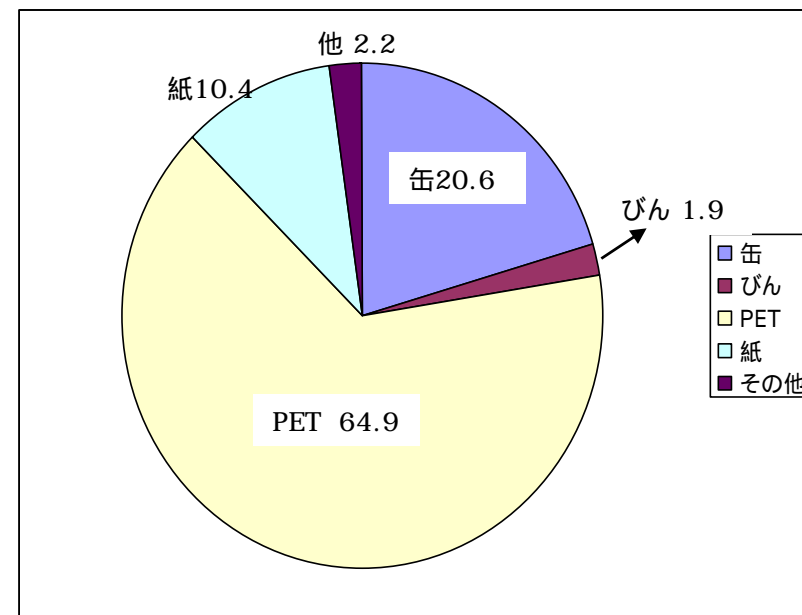
社団法人全国清涼飲料工業会

専務理事 公文 正人

1.清涼飲料における容器別生産量の動向(1)

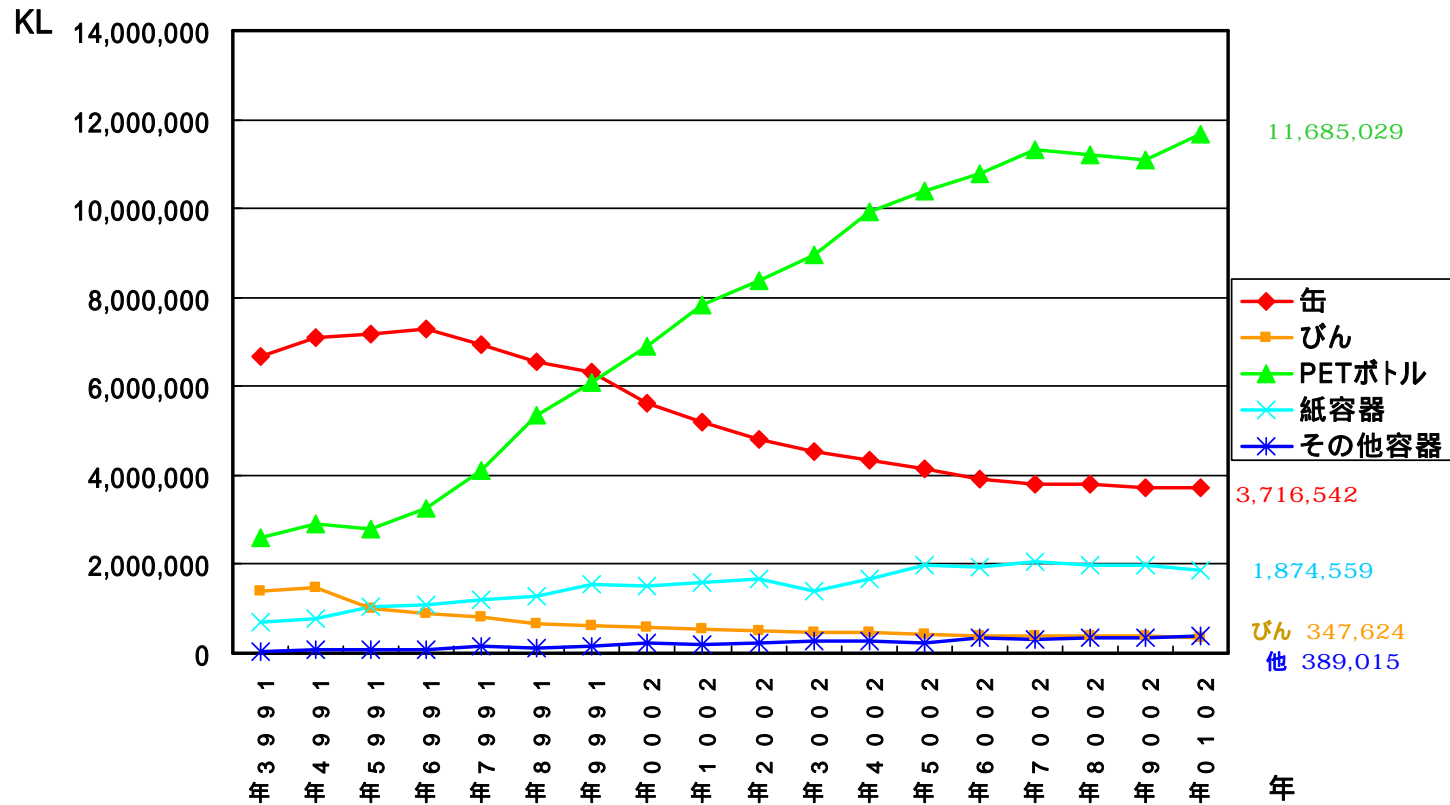
2010年 容器別生産量

	生産量(KL)	シェア(%)
缶	3,716,542	20.6
びん	347,624	1.9
PET	11,685,029	64.9
紙	1,874,559	10.4
その他	389,015	2.2
合計	18,012,769	100



1. 清涼飲料における容器別生産量の動向(2)

容器別生産量の推移



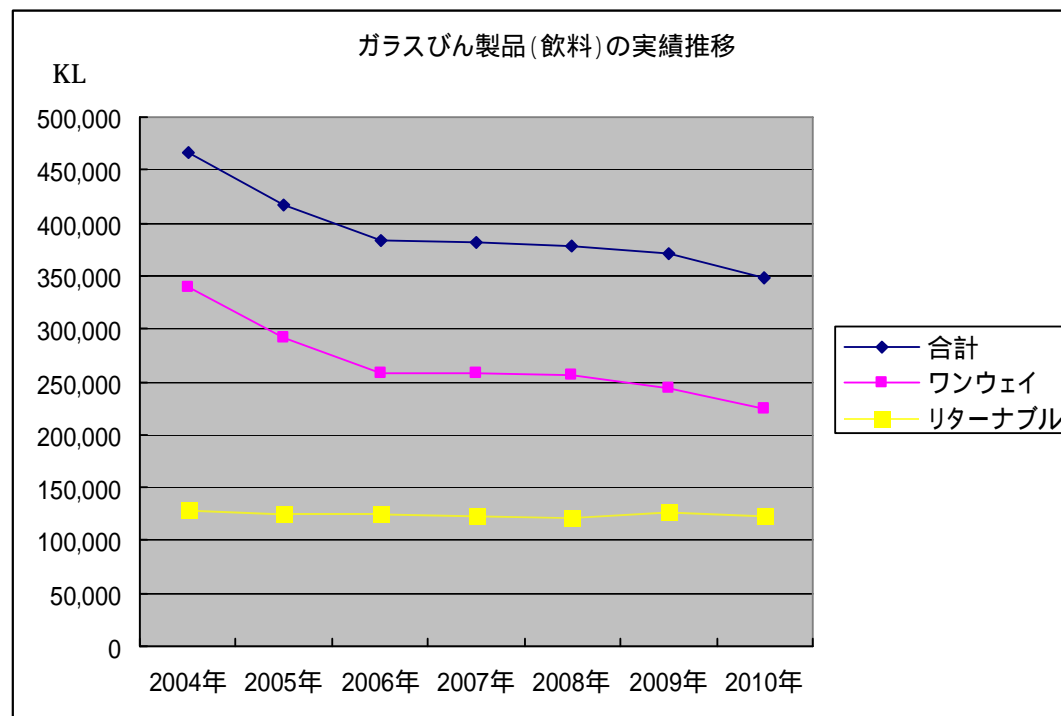
1. 清涼飲料における容器別生産量の動向(3)

中味(飲料)からみた
ガラスびん製品生産量の推移
は微減・横ばい傾向

2010年実績(単位:KL)

ガラスびん合計	347,624
ワンウェイ	224,519
リターナブル	123,105

((社)全国清涼飲料工業会統計資料から)



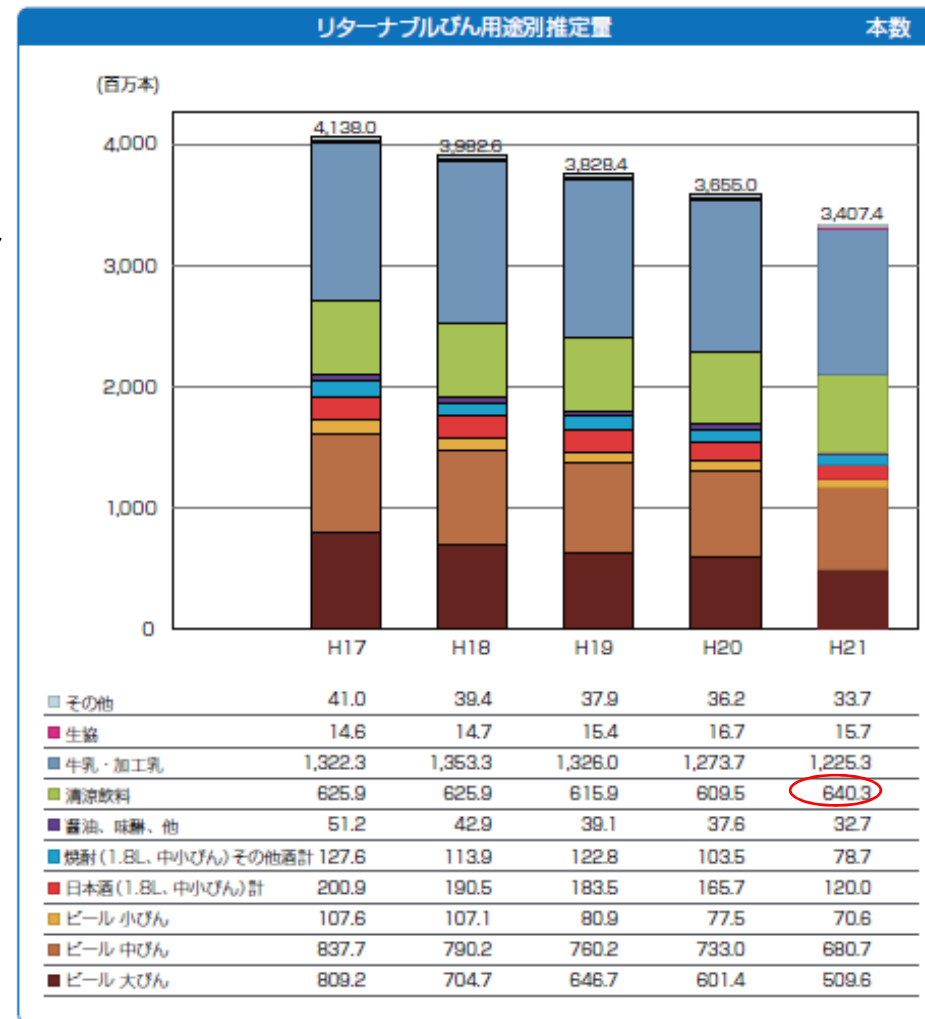
1. 清涼飲料における容器別生産量の動向(4)

容器出荷からみた動向

・飲料用ガラスびん出荷本数
平成21年 13億9551万本
 (日本ガラスびん協会資料から)

・清涼飲料用リターナブル
 ガラスびん出荷本数
平成21年 640.3百万本
 (ガラスびんリサイクル促進協議会資料から)

* 平成21年出荷の清涼飲料
 びんの46%がリターナブル
 ガラスびん



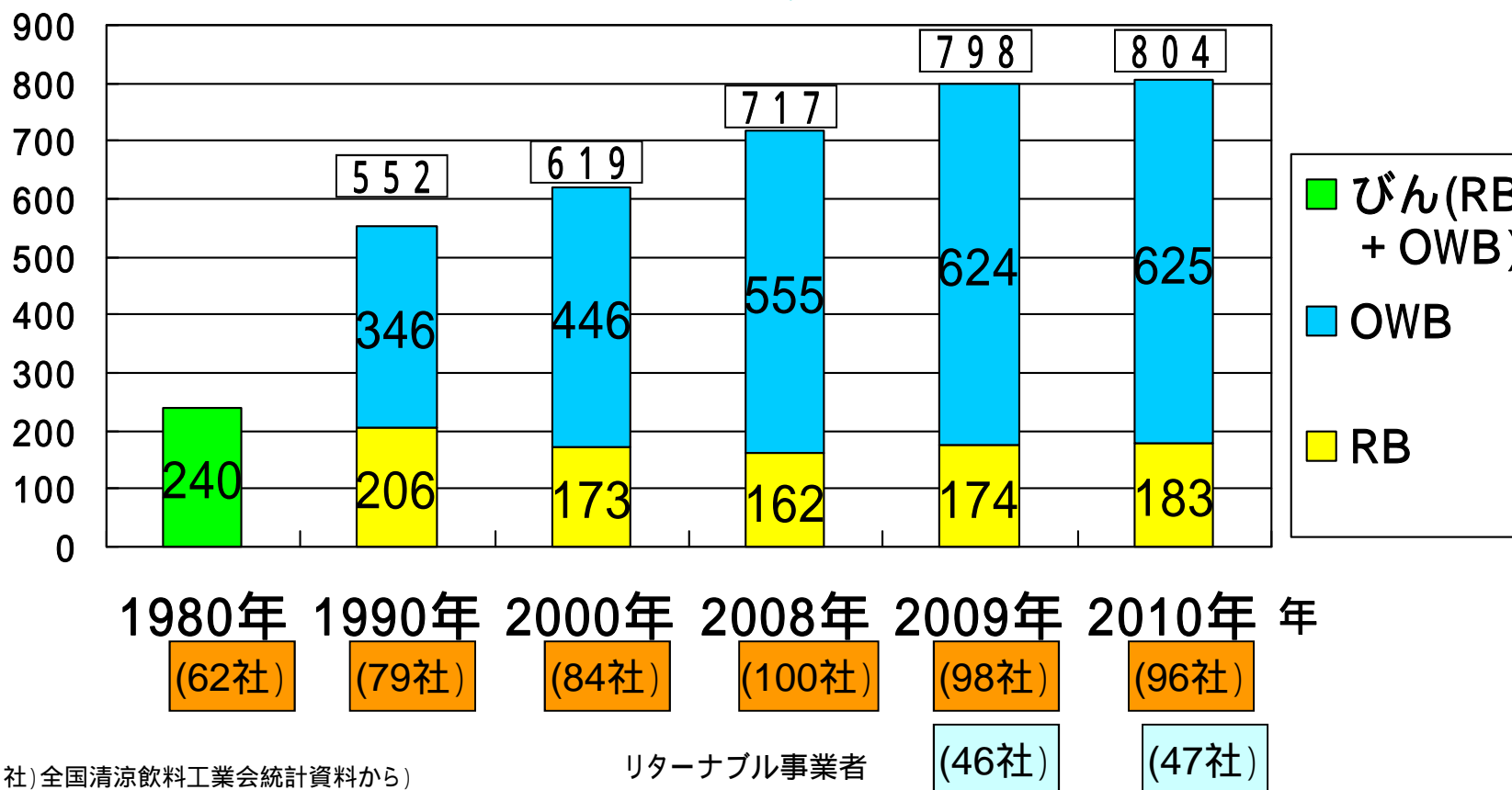
資料：農林水産省統計資料、ビール酒造組合、1.8L 糖再利用事業者協議会、
 全国清涼飲料工業会、びん再利用ネットワーク、日本ガラスびん協会資料から推計

1. 清涼飲料における容器別生産量の動向(5)

清涼飲料のガラスびん製品(品種)数の推移

リターナブル製品の品種数は大きく減っていない。
業務用市場で維持されていることによる。

製品数



((社)全国清涼飲料工業会統計資料から)

リターナブル事業者

(46社)

(47社)

ガラスびん製品例

2010年
625銘柄

ワンウェイびん (商品例)



リターナブルびん (商品例)

2010年
183銘柄



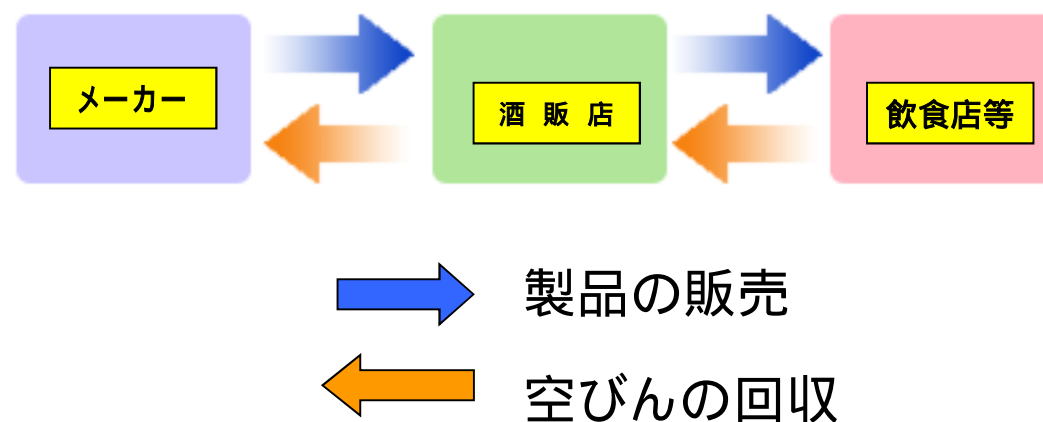
2. 清涼飲料におけるリユースの取組み事例(1)

業務用製品

(飲食店・ホテル・会館等の業務用市場)

酒販店による空びんの回収ルートがあり、
リユースシステムが維持できている。

販売と空容器回収の仕組み



主な業務用の製品

日本コカ・コーラ(株)



コカ・コーラ



カナダドライ
ジンジャーエール



カナダドライ
クラブソーダ



カナダドライ
トニックウォーター



ウーロン茶
煌(ファン)

サントリー食品(株)



ウーロン茶

サッポロ飲料(株)



リボンオレンジ10%



ウーロン茶



リボンタンサン

主な業務用の製品 キリンビバレッジ(株)



烏龍茶



キリンレモン



キリンオレンジきりり



ミネラルウォーター



キリントンサン

アサヒ飲料(株)



三ツ矢サイダー



ウィルキンソン
タンサン



ウィルキンソン
トニック



ウィルキンソンジン
ジャエル



一級茶葉
烏龍茶



バヤリースオレンジ

主な業務用の製品

富士ミネラルウォーター(株)
(東京都)



富士ミネラルウォーター 360壺

ホッピービバレッジ(株)



(東京都)

ホッピー (リターナブル)

東京飲料(資) (東京都)



ソーダ飲料 (リターナブル)

(株)博水社 (東京都)



ハイソーダ (リターナブル)

川崎飲料(株) (神奈川県)



ラムネ (リターナブル)

清水飲料工業所 (福岡県)



オリオンサイダー(株)
(愛知県)



サイダー (リターナブル)

2 清涼飲料におけるリユースの取組み事例(2-1)

地域密着の製品

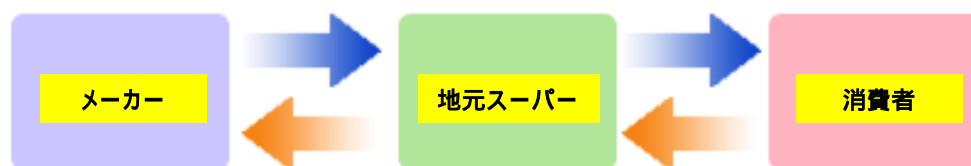
(リターナブル地サイダー等)

狭域的な地域で

地元のスーパー等流通業の協力があり、
空びんの回収ルートが維持できている。



青森県: 八戸製氷冷蔵(株)の事例



流通業にとって地域製品の販売が、地元顧客の誘引要素となり、空びんの回収が、顧客の固定化・再来店動機付けともなる。



リターンナブルびんがつなぐ 作り手・売り手と地域の絆

地域密着のためには何が大切か？
郷土に根付いた味と市民生活を応援

「八戸市民の冷蔵庫代わり」となっているみなとやは、昭和21年創業。現在八戸市内に9店舗を持つ地域密着型の食品スーパー。22年前から八戸製水の三島サイダーを取り扱っている。

ワンウェイ製品と違い、回収にかかるとリターンナブルびんの製品をなぜ置くのか？ きっかけは富田照雄社長の「我々、地域密着を旨とするスーパー」として、何が大切か考えよう」というひと言だったという。そこには大手スーパーが扱わない郷土食への愛着、若かりし頃に下宿で深夜ラジオを聞きながら飲んだ三島サイダーの思い出、サイダー業者が次々に廃業する中で変わらぬ味を作り続けている八戸製水への感謝、そしてリターンナブルびんという素晴らしいシステムへの共感が込められていた。

「よくびんの回収が面倒では？と聞われますが、びんを持ってお客様が来店して貰い物をしてくれませう。その上、ボイ捨てもなくなるし、資源の有効活用もできるんです」と湊さん。かわらない地域密着の姿勢で、地元の中小企業と市民生活を応援している。



株式会社みなとや
企画開発部長
湊 哲男さん
「子どもの頃、銭湯へ行ったら必ず父に三島サイダーを買ってもらい、男闘士の秘密にしてみました。こんなふうには八戸人には三島サイダーに関する遺伝子があるんですよ」

清飲彩2009年夏号



みなとやでは昨年4月に新しいリターンナブルびん®に変ったことを機に、びんの保証金を10円から15円に。すると約50%だった回収率が75%に上がった。

※全清飲と全国清飲飲料協賛組合連合会では、全国中リ企業団体中央会の道路開拓事業により、独自のリターンナブルサイダーびんの開発を行い、2008年に使用開始。



三島サイダーには、三島シトロンとバナナサイダーがある。バナナサイダーが生まれた昭和30年代には、バナナは僅れの果物だった。
※写真は協力発送用のワンウェイびん



水もサイダーも全て17人の従業員全員で作っている。



八戸製水冷蔵株式会社
工場長
橋本俊二さん
「三島シトロンは炭酸が溜めでシトラス系。昔のままです。洗練されていないところがいいんです。八戸の人ではなくても郷愁を感じる味です」

数年前の地サイダーブームではサイダーの売り上げが急が上がったものの、現在の売り上げの内訳は水が9割、サイダーは1割程度に過ぎない。それでも橋本さんは「ブームは一時的なもので沈黙してあたりまえ。うちの会社は地域の皆さんを支えられて成りたててきていますから、地元の人から飲みたい」という要望があるうちは作り続けます」と言う。また、「地元の人に飲んでもらう商品だから回収・再利用できるびんがいい」と、リターンナブルびんにもこだわっている。

※協力発送用ワンウェイびん

八戸の暮らしを支えてきた会社ができる 懐かしいリターンナブルびん入りサイダー

もとは造り酒屋。何か地域のためになることを」と水力発電定期バスの運行事業。八戸のインフラを支え、大正10年に地元三島の名水で湯業に必要な水を作るように。そして翌年には三島の水でサイダーを作っていた同業者から営業権を譲り受け、サイダーの生産を開始した。以来、八戸製水冷蔵は業務用の水と懐かしいサイダーを作り続けている。



八戸製水冷蔵株式会社
青森県八戸市白根 1-8-1
TEL:0178 (33) 0411



清飲彩2009春号

福井県人の思い出あふれる 懐かしの「ふるさと」の味「リターナブルびん」

子どもの頃に飲んだ懐かしの味を
越前ガニや蕎麦と並ぶ名物に！

福井県で30歳以上なら知らない人はない、と言われる「さわやか」は北陸ローヤルボトリング協業組合のロングセラー商品。福井県中小企業団体中央会に勤める井上さんも、小学生の頃学校帰りに飲んでいた人だ。そんな井上さんは機関誌の取材で北陸ローヤルボトリング協業組合の森田さんと出合い、「経費削減のためなる努力と工夫で何でもクリアしていく」という姿勢がすごいと思った。不景気と言われる状況の中でも30年間がんばって「さわやか」を支えている姿を見て、他の会員さんも「真けていられない」と刺激になってくれればと語る。

「食の不信や地産地消の風に乗って、地元製品を見直す動きがでています。福井県の企業も、その風を捉え、新しいことに挑戦しています。県唯一の地サ「イダー」さわやか」には、越前ガニや蕎麦もいけれど福井には「さわやか」もあるよ！と自慢され愛される存在であって欲しいですね」と井上さん。これからも「地元」の特色を活かし、地元でがんばる人たちの製品を応援し、PRしていく。



福井県中小企業団体中央会
企画振興課 主事
井上祥一さん
「福井県人は恥ずかしがり屋でPR下手。でも、個性的な人も多く、しっかりしたビジョンで自信を持って製品を作っている人が多いんです」



年6回発行される福井県中小企業団体中央会機関誌。2008年に「さわやか」が取り上げられた。



機械のメンテナンスもすべて森田さん自身で行う。時には機械を作ってしまうことも。

「大人には甘すぎるかな、とも思うけれどよく飲むのは小中学生。だから味は甘く、色も変えないですよ。」と森田さん。



北陸ローヤルボトリング協業組合
福井県福井市上野本町 5-1
TEL:0776 (56) 0577

大手とは違うものを作りたい！との思いが
時代が変わっても愛される製品を生み出した

「さわやか」が生まれたのは30年前。当時は大手企業のグレープ・オレンジ味の飲料が主流だった。そこで森田さんは「同じじやダメだ」と、珍しいメロン味の製品を作ることにした。また、どんな飲料なのか分かりやすいよう、並べ飲料だから「さわやか」、メロン味だから緑色、と説明のいらぬ外観に。子供たちが喜ぶように、王冠の裏にアタリくしをつけた。するとこれが大ヒット。福井内の人気商品となった。

しかし、時代が変わり駄菓子店はなくなった。コンビニやスーパーには、大手の製品しか並ばず、リターナブルびんの森田さんの製品は置いてもらえない。「さわやか」のヒズナだ。ところが、子供の頃に飲んだ世代が大人になり、スーパーの店長となって懐かしがって置いてくれたり、「飲みたい」という要望を出してくるようになり、おかげで今では、県内の殆どのスーパーに並ぶようになった。

森田さんの工場は主力はびん入りウーロン茶で、「さわやか」の製造は3万本ほど。それでも、これからは「懐かしい故郷の味」を作り続けていくという。



北陸ローヤルボトリング協業組合
代表理事
森田英昭さん
「さわやか」は金暮れ正月によく売れます。福井を離れたことが重なり買ってくださるんです。懐かしい故郷の思い出の味なんですわ」

2. 清涼飲料におけるリユースの取組み事例(2-2)

リターナブルサイダーびんの製造(復刻)

- ・平成19年度に、中小企業庁の補助事業「中小企業活路開拓事業」の助成を受け、開発に向けた取組みを開始
- ・平成20年度に共用リターナブルサイダーびん(内容量340ml)を製造
- ・現在5県(青森・岩手・福井・兵庫・徳島)の事業者が使用
上記の5県の事業者も一部を除き苦戦している。

[リターナブルサイダーびんの課題]

- ・壘の製造時の製造ロットの確保
- ・一定の販売数量確保
- ・リターナブル製品を購入し、空びんを回収できるよう、地域の小売店・消費者・地方自治体・びん商などの協力が必要。
(単なる、地域密着+規格共通びんの投入だけではリターナブルは成立しない。)

キンキサイン(株)(兵庫県)



姫路城サイダー



ひな祭りサイダー

2. 清涼飲料におけるリユースの取組み事例(3)

- ・Rドロップス2号の規格設計等に協力
- ・東京包装容器リサイクル協同組合、びん再使用ネットワークから全清飲へ壺設計の改善協力要請。
- ・2010年度事業として、規格設計のプロジェクトに生産者の立場で参画。



試作品による試飲会



10月3日、初田ごみフェスタでの試飲の様子

3. びんリユースが進まない要因

ライフスタイルの変化

- ・利便性によるワンウェイ製品の選択
(軽い・持ち運びに便利・びん返却の手間がない・開栓しやすい・再栓可能・割れないetc.)
- ・家族構成、住宅事情等の変化
(小型住宅、核家族、共働き、高齢化etc.)

流通・小売店の変化

- ・量販店・コンビニの増加で酒販店、一般小売店の減少(宅配の衰退に伴い、空びん回収が困難に)
- ・ネット通販の利用

4. びんリユースの成功に必要なと思われる要素(1)

これまでに維持している業務用ルート以外に
リターナブル製品を拡大（成立させる）には、

[製造事業者として必要な要素]

一定の製品回転率

ビジネスが成立つ規模の購入

高い空びん回収率

90%以上の回収率

製品の運搬距離が短いこと

遠距離では環境負荷が増大

4. びんリユースの成功に必要なと思われる要素(2)

[販売・回収・普及に必要な要素]

地域の流通・小売店の協力

リターナブル製品の販売と空びん回収

びん回収事業者の協力

リターナブル瓶を回収する仕組みの構築

地域の消費者の協力

リターナブル製品の購入と空びんの返却

地方自治体の協力

リターナブル製品普及への支援